



2026.9 No.126

- ・百年つづく「森の国・木の街」へ樹木採取権制度が果たす役割
(資源活用第一課)
- ・地域との連携による親しまれる森林づくりに向けて
(十勝西部森林管理署)
- ・こんにちは森林官です！(上士幌森林事務所)
- ・センター通信(駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター)
- ・若手職員のコーナー(宗谷森林管理署)
- ・「豆本」を片手に国有林を知る(広報ワーキングチーム)
- ・上川浮島風景林(上川中部森林管理署)
- ・独立行政法人農林漁業信用基金からのお知らせ

林野庁



北海道森林管理局

百年つづく「森の国・木の街」へ樹木採取権制度が果たす役割

～林業経営体の経営基盤確保に向けて～

資源活用第一課

【樹木採取権制度創設の背景】

樹木採取権制度とは、国有林野の一定区域を樹木採取区として指定し、その区域において一定期間、安定的に樹木を採取できる権利を民間事業者に設定する制度です。

我が国では、戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎えており、この森林資源を「伐って、使って、植える」という形で循環利用していくことで、先人が築いた貴重な資源を将来にわたり継承・発展させていくことが、これからの森林・林業施策の重要な課題となっています。

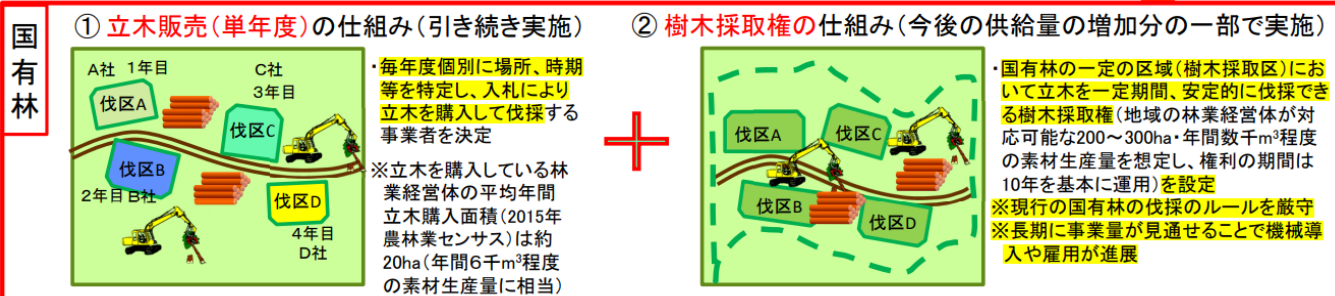
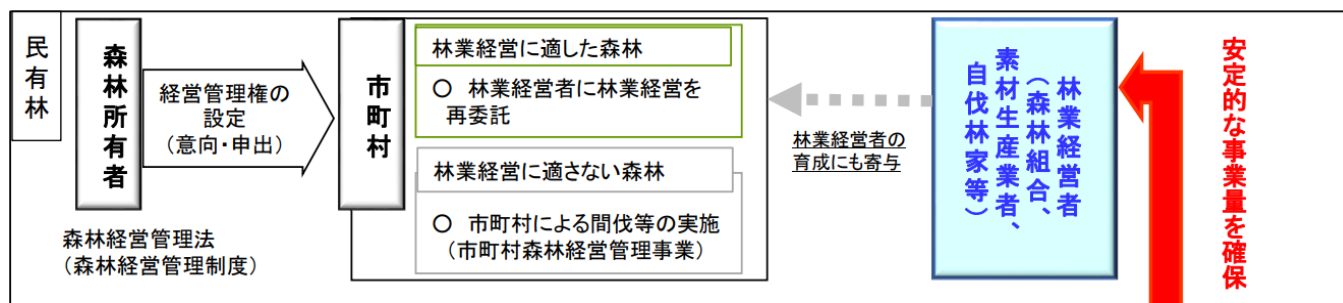
その担い手となる**林業経営体の育成**には、安定的な事業量の確保が必要です。このため、従来の入札による立木販売に加え、国有林において長期的かつ安定的に事業者が樹木を採取できる権利である**樹木採取権制度**が令和2年4月からスタートしました。

なお、樹木採取権の存続期間は10年程度、樹木

取区の面積は200～300ha程度、年間採取面積は20ha程度を基本としています。また、樹木の採取に当たっては、国が定める基準や計画に適合しなければならず、森林の持つ公益的機能の確保に支障を来さない仕組みとしています。

【樹木採取権設定までの流れ】

樹木採取権の設定に当たっては、川中・川下（※1）の事業者を対象に、「**新規需要創出動向調査（マーケットサウンディング）**」を実施します。この調査により木材需要増加の実現性が確認された森林計画区（※2）について、約1年間をかけて各種調査や関係機関との協議、意見聴取などを実施して、樹木採取区の指定・公示を行います。その後、樹木採取区ごとに樹木採取権の設定を希望する者を公募し、申請内容を審査・評価した上で、最も適当と認められた者に樹木採取権を設定します。



【地域への貢献】

樹木採取区の指定に当たっては、地域における産業の振興に寄与するものであることが条件となっています。また、樹木採取権を設定する事業者を決定する際も、その寄与の程度を勘案して選定を行います。樹木採取権の設定による地域への効果としては、長期にわたり安定した原木供給が見込まれることで、製材工場や木材加工施設など地域の関連産業が計画的な設備投資や事業展開を進めやすくなることが挙げられます。さらに、伐採や造林、運搬、加工など幅広い分野で継続的な雇用の創出・維持が期待され、若い世代の就業機会の確保や技術の継承にもつながります。このように、森林資源を活かした産業の発展と地域社会の活性化を両立することで、持続可能な山村地域づくりにも貢献していきます。



採取木材を地元の川中事業者が製材

【北海道の樹木採取権運用状況】

現在、全国8か所で樹木採取権が設定されています。このうち北海道では、根釧西部森林管理署管内において、令和4年10月3日に存続期間9年間の樹木採取権を設定し（樹木採取区面積677.32ha、令和8年5月31日時点）、実際に採取が行われています。

また、令和9年度には、上川南部、網走西部及び十勝森林計画区において、樹木採取区指定の検討に向けた新規需要創出動向調査（マーケットサウンディング）を実施する予定です。



採取箇所

【今後に向けて】

令和8年6月に閣議決定・公表された新たな『森林・林業基本計画～百年つづく「森の国・木の街」～』では、森林・林業・木材産業の好循環の実現を目指しています。計画では、国産材の利用拡大や安定供給体制の強化、強靱なサプライチェーンの構築、担い手の確保・育成などが重要な施策として位置付けられています。樹木採取権制度についても、林業経営体の経営基盤及び経営力を強化するための取組の一つとして、引き続き位置付けられています。副題に掲げられた百年つづく「森の国・木の街」の実現に向け、北海道森林管理局では、樹木採取権制度の効果的な運用を通じて、今後も林業経営体の経営基盤の確保・強化と担い手の育成に取り組んでまいります。

用語解説

※1 「川中・川下」

川中：伐採された原木を流通させる、あるいは原木を原材料として製品を製造する事業者（原木市場、製材工場等）

川下：木材を最終的に加工・販売する事業者（建設会社、家具メーカー等）

※2 「森林計画区」

農林水産大臣が、都道府県知事の意見を聞き、地勢その他の条件を勘案し、主として流域別に都道府県の区域を分けて定めたもの。

地域課題の解決に向けた取組

地域との連携による親しまれる森林づくりに向けて

十勝西部森林管理署

【はじめに】

十勝西部森林管理署は、帯広市をはじめ十勝地方西部・南部の8市町村に広がる約14万ヘクタールの国有林を管理しており、その約6割は日高山脈襟裳十勝国立公園に指定されています。日高山脈の原生的な森林生態系や生物多様性の保全、水源かん養機能の維持など、地域の環境保全に資する森林施業を実施しています。

【国見山自然観察教育林について】

里山における森林レクリエーションの場の提供も重要な取組の一つです。帯広市に隣接する芽室町と音更町にまたがる標高116.6mの国見山自然観察教育林は、約66ヘクタールの林内に郷土樹種であるトドマツのほか、ミズナラ、カシワをはじめとする広葉樹林や、ストロブマツ、ヨーロッパアカマツ、レジノーザマツなどの外国樹種による人工林も造成されており、天然林と人工林が織りなす多様で豊かな森林景観が広がっています。また、帯広市中心部から約10kmというアクセスの良さから、ハイキングや森林浴、野鳥や野草の観察を気軽に楽しむことができるため、四季を通じて多くの利用者が訪れる身近な森林として、地域の皆さんに親しまれています。

【地域と連携した整備体制づくり】

国見山をより親しまれる森林としていくため、利用者の声を反映しながら地域と連携・協力した維持管理を進めることを目的として、平成29年

3月に「国見山自然観察教育林管理運営協議会」が発足しました。これまで、樹名板の更新や遊歩道の木製階段や手すりの改修、ウッドチップの敷設など、利用者の安全性や利便性の向上に向けた環境整備が進められたほか、地元企業による駐車場周辺の草刈りや清掃ボランティア活動も積極的に実施していただいております。利用者が気持ちよく散策を楽しめる環境づくりの一翼を担っていただいております。

また、これまで課題となっていた人工林の間伐については、協議会での協議を重ねながら、林床のかく乱を最小限に抑えるとともに、野生動植物の生育環境にも十分配慮して施業を進めてきました。その結果、鬱蒼（うっそう）としていた林内の光環境が改善され、下層の稚幼樹の生育が促進されるなど、より健全な森林へ誘導することができました。

【今後に向けて】

国見山を将来にわたり地域に親しまれる森林として維持していくため、今後も地域や関係団体との連携を深めながら、開かれた国有林づくりを推進していきます。引き続き、利用者の安全性・快適性の向上と豊かな自然環境の保全との両立を図り、さらに地域に愛される森林づくりに取り組んでいきます。



ウッドチップ敷設



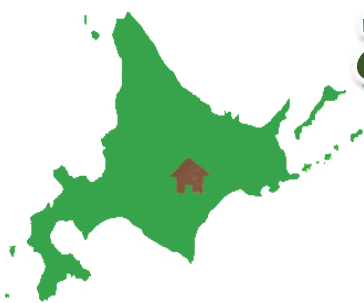
清掃ボランティア



国見山自然観察教育林の散策



オオウバユリ



こんにちは 森林官です！



十勝西部森林管理署東大雪支署 上士幌森林事務所
森林官 小澤 雄

【管内の概要】

上士幌森林事務所は十勝地方北部に位置する上士幌町に所在し、上士幌町と士幌町に広がる国有林約 7,400 ヘクタールを管理しています。

上士幌町は、畑作や酪農、林業といった第一次産業が盛んな地域です。また、ぬかびら源泉郷や北海道バルーンフェスティバル、ナイト高原牧場、旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群など、多くの観光資源にも恵まれています。

橋梁群の中でも特に有名なタウシュベツ川橋梁は、上士幌町へ林道ゲートの鍵を貸与し、一般向けに貸出しが行われています。しかし、予約がなかなか取れないほど人気が高く、全国から多くの観光客が訪れる上士幌町を代表する観光スポットとなっています。



タウシュベツ川橋梁

【森林事務所の業務】

森林事務所の業務は多岐にわたり、主な業務として次のようなものがあります。

- 林道や森林を巡視し、車両の通行に支障となる倒木などの処理
- 森林施業計画の作成に必要な情報を収集するための地況・林況調査
- 国有地と民有地の境界標を確認する境界巡検や、境界を巡視してカメラなどで記録する境界巡視

- 公益事業等に係る貸付箇所の現地確認
- 請負により実施される伐採や根踏み（前年の秋に植えた苗木が、冬を越す間に浮き上がった倒れたりしたものを元に戻す作業）の監督
- 収穫調査予定箇所の踏査

このように、日々さまざまな現場業務に従事しています。

特に今年は、例年以上に林道への倒木が多く、その処理に汗を流す日々を送っています。



処理前

太さ約 50 cm のトドマツの倒木処理



処理後

【最後に】

現場業務は山中で行うため、街中では目にすることのない雄大な景色に感動し、毎年ヒグマを目撃しては緊張し、蚊やブヨの攻撃に耐え、倒木処理による筋肉痛と向き合いながら業務に励んでいます。

その一方で、おいしい十勝の食べ物に心を癒され、活力を得ています。これからも国有林を適切に管理するため、安全に留意しながら、日々の業務に着実に取り組んでいきたいと思っています。

センター通信



駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター



当センターは、大沼国立公園エリアに所在する国有林を主な活動区域として、「樹木博士認定会」や「森林づくり塾」などの体験型森林環境教育のほか、「大沼自然豊かな森づくり協議会」と連携した吉野山国有林の自然再生事業に取り組んでいます。今回は、多様性のある森林への再生を目指して取り組んできた「吉野山森林植生観察会」についてご紹介します。

七飯町では、古くからスキーが盛んに行われてきました。その中でも「吉野山スキー場」は1925年に開設され、1988年に閉鎖されるまで、道南地域における冬季スポーツの普及に一翼を担いました。スキー場の閉鎖後、跡地が「ふれあいの森」に指定されたことを契機に、地元大沼の漁業関係者や地域住民が「大沼自然豊かな森づくり協議会」を立ち上げ、自然再生活動に取り組み始めました。

森づくり協議会では、吉野山の森づくりの方向性について議論を重ねるとともに、「自然再生には森の変化を把握するため、植生状況の変遷を知る必要がある」という考えのもと、北海道アウトドアガイドである木村マサ子氏を中心に、2015年から現在まで「植生観察会」と銘打ち、一般の方も参加しながら植生調査・記録を行ってきたことが「吉野山森林植生観察会」の始まりです。

昨年は植生調査開始から10年の節目を迎え、これまでの調査データが集積されたことから、『吉野山の豊かな森づくりへ』と題した冊子を作成し

ました。この冊子には調査結果に加え、これまでの活動内容や吉野山で観察できる植物、鳥類などを紹介しながら、関係者や地域の皆さまへ配付しました。



吉野山森林植生観察会

今年5月には、市民や関係者23名が参加して、植生観察会を開催しました。参加者は完成した冊子を手にし、講師の木村氏から、観察された植物の特徴や名前の由来などについて説明を受けながら、吉野山の散策を楽しみました。



吉野山の散策



アオジ

当センターでは今後も地域の皆さまと連携しながら、大沼周辺の水質保全や景観の維持、野生動植物の保全などに取り組み、豊かな自然環境の保全と再生を進めていきます。



作成した冊子『吉野山の豊かな森づくりへ』

も い 森 林 の 話

若手職員のコーナーです

第43話
宗谷森林管理署
美濃部 ゆず

今年度より宗谷森林管理署に配属となり、稚内の地に初上陸しました。以前から「いつか行ってみたいな」と思っていた礼文島や利尻島へ、業務で訪れる機会があったり、日本最北端の宗谷岬へ足を運んだり、不思議な感覚を味わいながら日々を過ごしています。夏は涼しく過ごしやすい気候ですが、稚内の冬が今から怖いです。

今回は、宗谷森林管理署での数か月の間に経験した業務について紹介したいと思います。

【植生マット工】

植生マット工とは、治山工事で切土や盛土を行った後の斜面や崩壊した斜面に、植物を生育させるためのマットを敷設することで、斜面の保護と緑化の促進を同時に図る工法です。

今回は、利尻島の深内沢において、前年度に施工できなかった箇所へ植生マットを敷設しました。斜面に植生マットを敷設し、アンカーピンを金槌で打ち込んで固定していきます。

施工後のきれいになった斜面を見ると、大きな達成感があります。また、天気の良い日に利尻島へ訪れると、利尻富士を間近で望むことができ、その雄大な景色も業務の楽しみの一つです。



作業中の様子



完成した斜面



姫沼から見た利尻富士

【チルトローテーター】

宗谷森林管理署管内で実施されている林道工事において、チルトローテーターを活用している現場を見学する機会がありました。

チルトローテーターは油圧ショベルの先端に装着するアタッチメントで、左右45度の傾き（チルト）と360度の回転（ローテーション）が可能です。林道の路床を掘削する際や道路脇の斜面を整形する際に、ショベルカー本体を移動させることなくバケットの角度や向きを調整できるため、作業を効率良く行うことができます。

例えば、写真1のように従来の油圧ショベルで斜面に正対して掘削を行う場合、一度に下部まで動かすことが難しく、途中でショベルカー本体を移動させる必要があります。一方、写真2のよう



写真1 チルトローテーターなし



写真2
チルトローテーターあり

に、チルトローテーターを装着した場合は、斜面に正対しなくとも離れた場所からバケットの角度を変えながら作業を行うことができ、一度に斜面下部まで掘削することが可能です。

また、運転席に座ったままバケット交換ができるほか、簡易グラップル機能も備えており、作業の省力化や効率化につながる点も大きな特徴です。

【おわりに】

宗谷森林管理署ならではのさまざまな業務や現場を経験できる機会を大切にしながら、日々知識や技術の習得に努めていきたいと思っています。また、宗谷ならではの自然や環境にも親しみながら、今後も経験を積み重ねていきたいです。

「豆本」を片手に国有林を知る ～大雪山で山岳遭難防止啓発と国有林のPRを実施～

夏山シーズンにおける安全登山を呼びかけるため、令和8年8月11日（火曜日）、大雪山系旭岳姿見ロープウェイ駅周辺において、北海道警察、北海道警友会、上川総合振興局、旭川市内高校山岳部などの関係機関による合同山岳遭難防止啓発活動が実施されました。この活動に、北海道森林管理局広報ワーキングチーム（以下「広報 WT」）の職員3名が参加しました。



旭岳姿見ロープウェイ駅



広報 WT の3名

当日は好天に恵まれ、多くの登山者や観光客が訪れる中、関係機関が連携し、登山計画書の提出や適切な装備の携行、最新の気象情報の確認など、安全登山に向けた呼びかけを行いました。

広報 WT では、山岳遭難防止の啓発にあわせて、国有林について広く知っていただくために作成したオリジナルの「豆本」を活用した広報活動を実施しました。

今回配布した豆本は、親しみやすい鳥獣登山戯画を用いた手のひらサイズの冊子で、登山や観光の合間に気軽に読める内容となっています。国有林の概要をはじめ、森林が持つ水源涵養機能、土砂災害防止機能、生物多様性の保全、地球温暖化防止への貢献など、国有林が果たす多面的機能を分かりやすく紹介しています。また、森林整備や保全活動など、普段目にする機会の少ない国有林の取組についても掲載し、森林と私たちの暮らしとの関わりについて理解を深めていただける内容としました。



豆本の配布

当日は、多くの登山者や外国人観光客、家族連れに豆本を手渡ししながら説明を行いました。受け取った方の中には、その場で興味深そうに読み始める方もおり、「大雪山周辺の森林がどのように管理されているのか初めて知った」「コンパクトで分かりやすい」といった感想が聞かれました。気軽に持ち帰ることのできる豆本という形式は来訪者にも好評で、国有林の魅力や役割を伝える有効な広報手段であることを実感する機会となりました。



登山者や観光客の皆さん

また、豆本の配布にあわせて、アンケート回答用の QR コードを掲載した案内も配布しました。アンケートでは、豆本を通じて初めて知ったことや興味を持った内容、国有林の認知度、今後知りたい情報などについて意見を募集しました。



豆本「鳥獣登山戯画」とアンケート

さらに、北海道森林管理局公式 Instagram 及び Facebook へアクセスできる QR コードも紹介し、SNS を通じて国有林や森林・林業に関する情報を

継続的に発信していることを PR しました。

来訪者がその場でスマートフォンからアクセスする様子も見られ、北海道の国有林に関する情報発信の取組について理解を深めていただく機会となりました。

アンケートでいただいたご意見は、今後の広報活動や情報発信の充実に活用していく予定です。豆本は単なる配布物として終わるのではなく、アンケートや SNS へつなぐ入り口として活用し、イベント後も継続して国有林に関する情報に触れていただける仕組みづくりを進めていきます。

広報 WT では、今後も山岳遭難防止に向けた関係機関との連携を継続するとともに、豆本をはじめとする様々な広報媒体を活用しながら、国有林の役割や魅力、森林の大切さについて広く発信してまいります。利用者の声を取り入れた分かりやすい情報提供に努め、国有林に対する理解と関心の向上につながる取組を進めていきます。



山頂を目指す登山者



旭岳

上川浮島風景林

上川中部森林管理署

【上川浮島風景林の特徴】

上川浮島風景林は、北海道北部の国道273号沿いに位置し、道北地方と道東地方の接点に広がる「浮島湿原」とその周辺部からなる景勝地です。

浮島湿原は、標高約870mの溶岩台地上に形成された山地高層湿原で、面積は約22ha、周囲約3kmに及びます。湿原内には大小70余りの沼が点在し、最も深い「東ノ沼」は約2.5mの深さがあります。

山地高層湿原は、冷涼な気候と緩やかな地形により、枯れた植物が十分に分解されないまま堆積し、厚い泥炭層が形成されることで生まれます。湿原内には、泥炭が浮かんでできた「浮島」が見られる沼もあり、独特の景観を生み出しています。

【気候等と植生・野生生物】

標高が高いため冷涼な気候で、湿原にはエゾヒツジグサなどの水生植物、モウセンゴケなどの湿性植物、エゾイソツツジやチングルマなどの高山植物が生育しています。また、沼にはエゾサンショウウオが生息し、多くの野鳥が飛来しています。



エゾイソツツジ

湿原周辺にはアカエゾマツを主体とした亜寒帯林が広がり、多様な動植物の生息・生育環境となっています。豊かな自然が織りなす美しい景観を楽しむことから、毎年多くの人々が訪れています。

【楽しみ方】

面積約22haの湿原には、大小70余りの沼があり、浮島が点在しています。湿原周辺は開けた場所が多く、沼を巡る木道からは野鳥などの動植物を容易に観察できるほか、美しい自然景観や高層湿原ならではの特異な景観を楽しむことができます。



浮島湿原

《アクセス》

「浮島湿原」入口の駐車場は、国道273号線の「浮島トンネル」上川町側入口手前から、国道右側の旧道を約2.5km進んだ場所にあります。駐車場から浮島湿原までは、遊歩道を徒歩で約30分です。なお、駐車場に設置されているトイレは、6月上旬から9月下旬まで利用できます。



《アイヌ語の由来》

上川（カミカワ）

アイヌ語の「ペニウクルコタン（上川・の・人の・土地）」に由来するとされ、上川盆地のアイヌ語からきています。

農林漁業信用基金の 林業信用保証のご案内



- ・災害で設備が被災してしまった！再建したいが。。
- ・新たに会社を設立したけれど、まだ実績がなくて銀行に融資してもらえない…
- ・今まで造林・育林業を営んできたが、**素材生産業も始めたい**なあ…

このようなお悩みについて
公的保証制度でみなさまの資金調達をお手伝いします！

【林業信用保証の主な内容】(幅広い業種・資金を対象にしています。)

対象となる 業種

- ①造林・育林 ②素材生産 ③木材・木製品製造 ④薪炭生産
⑤林業種苗生産 ⑥きのこ生産 ⑦木材卸売等※ ⑧木材製品利用※
※⑦⑧は、北海道知事の認定を受けた計画に基づく制度資金のみ対象です。制度資金の利用については、道庁の林務担当部局にお問い合わせください。

対象となる 資金

- ・ 苗木、立木、資機材の調達費、燃料費、人件費、機械のリース料などの**運転資金**
- ・ 事務所・工場、林業機械、木材加工機械、運送用車両等の導入などのための**設備資金**(中古の機械等も対象です。)

保証料

- ・ 年0.15～1.80%と低位で、財務内容により適用されます。
- ・ 日割り計算のため無駄がありません。
- ・ **保証料が最大5年間免除になる保証メニュー**も複数あります。

※保証には一定の審査があります。

独立行政法人 農林漁業信用基金
電話 03-3434-7825 (林業信用保証管理部)

※以下の住所に移転しました(令和8年9月24日から)

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-1-16
大手町ゲートビルディング5階

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html>



信用基金
ホームページ

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

屈斜路湖の美しさを守る！自然公園
クリーンデーで大汗を流してきました！



【根釧西部森林管理署】

8月18日、「自然公園クリーンデー」の一環として、屈斜路湖東岸の碁石ヶ浜(ごいしがはま)周辺で、清掃活動と特定外来生物「アメリカオニアザミ」の駆除に取り組みました。アメリカオニアザミは非常に鋭いトゲを持ち、皮手袋や作業服の上からでも刺さるほどです。参加者はスコップを活用しながら、「根を残さず抜き取る」ことを意識して作業を進めました。今後も地域の皆さまと連携しながら、世界に誇る豊かな自然環境の保全に取り組んでいきます。

山の日 登山届啓発活動の実施



【上川南部森林管理署】

8月11日、十勝岳温泉にて、富良野警察署及び道北地方山岳遭難防止対策協議会富良野地方支部の方と、登山者へ登山届提出の呼びかけ及び安全登山の啓発を行いました。北海道森林管理局作成の登山における準備やマナー啓発用豆本「鳥獣登山戯画」を配布し、関係者や登山者からも高い関心が寄せられました。今後も北海道警察や関係機関と連携し、登山者への安全啓発活動を継続し、山岳遭難事故の防止に努めていきます。

森林整備推進協定締結 3市町村長と 共同施業団地を視察



【石狩森林管理署】

7月16日、積丹町長、石狩市長、赤井川村長および関係機関に、積丹町内の民有林・国有林における共同施業と中間土場(ストックヤード)を活用した取組をご視察いただきました。隣接の国有林と町有林にて、同時期に間伐し、公道に面した大規模な中間土場に木材を集積し、協調して販売・出荷し、販売力の向上や物流の合理化につなげるものです。当日は事業請負者が、間伐作業からストックヤードで木材を積み上げる一連の作業工程をご覧いただきました。

芭露学園で森林教室を 開催しました。



【網走西部森林管理署】

7月23日、湧別町立芭露学園で森林教室を開催しました。はじめに、狩猟免許を持つ網走中部署森林官がヒグマの生態や注意点について説明し、その後、校内の樹木の樹名板を作成しました。児童たちは樹木の特徴を学びながら、協力して熱心に作業に取り組みました。完成した樹名板は樹木に取り付け、森林への理解と関心を深める機会となりました。今後も近隣森林管理署と連携し、充実した森林教室の開催に努めていきます。

広報 「北の森林 国有林」 9月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 タマゴタケ】

今月の表紙は、「タマゴタケ」です。

8～10月に林内地上に顔を出す食用キノコです。毒キノコのベニテングタケと似ているので、ご注意ください。



今月の表紙